

地域の文化

支える文化 人々を

11月3日は「文化の日」です。今年で4回目となりますが、つるせ西だより編集委員会では、日ごろ、地域の文化的な活動を支えてくださっているたくさんの方々の中から、3人の方にお話を伺いました。



渡辺モモ代さん



地域に笑顔を届けたい
マジックショーから変面に

平成14年度市民大学の人間コミュニケーション学のマジック講座受講者有志で、平成15年3月にマジックサークルを立ち上げ活動しておられる渡辺さんに、活動の状況と川劇(変

野村富雄さん



「書」をとおして地域に貢献したい

いつもにこやかに微笑んでいる野村さん。南畑で生まれ鶴瀬で暮らす、富士見人。「書」を通して地域に貢献したいと、硯友会の指導者や、いろいろなどころで子どもたちの書道の指導をされています。

高橋フサ子さん



歌で楽しく

新潟県上越市生まれで高校卒業後、新宿の洋裁学校で2年間学ぶが、「声」を使う仕事に就きたくて電電公社を受験し、30年余り電話交換手として働きました。早期退職後は大好きな歌を習い、キラリやコミセンの舞台上で

面)を取り入れたお話を聞きしました。

「中国の女性マジシャンが演技の中で、顔につけた面が瞬時に変わるのを見て、その妙技に魅せられ、中国へ教えを請いに行き、中国国家機密と言われ目的を果たせませんでした。その後、日本国内で活動している中国の方の指導を受け、衣装をそろえ、5年前にキラリにて初演舞を披露できました。

1回の舞台で、面は1人8〜14回くらい変わります。面一つひとつに意味があり、一般的に喜怒哀楽が表現されていて、失敗するとそこで演舞が止まってしまいます。今は2人で演じるため、お互いの調整でカバーしています。出演までの段取りに、初めは40分程度かかりました。今でも20分程度かかります」とのこと。大変難しい事なのに、今は安心して

て演舞できると説明をされました。
「地域での活動は、新年会、忘年会の集まりや、町会の敬老会、ケアセンター、諸催事等でマジックや変面を披露しています。ただ変面は広いスペースが必要なので、残念ながら披露できない場合があります。皆さんがびっくりし、喜んでくれることが、励みになります」とのこと。
変面を演舞できる方は富士見市とその周辺ではお2人だけとのこと、これからはますます地域の活性化に活躍されることを応援します。
(吉田)



西交流センター催事での演舞

硯友会は、鶴瀬西公民館時代有志で立ち上げ、20年余り続く大人の書道サークルで、月2回、当交流センターで開催されています。子どもたちに教えるようになったのは、難波田城公園で行われた書初め教室から。今では鶴瀬西交流センター、関沢児童館、針ヶ谷コミニティセンターと広がっています。

いところから「書」を初められたのか伺うと、幼いときはまだ戦争中で、今の小学校も国民学校と言っていた時代です。「火の用心」などと書いたのが初めてかなと、振り返ってくださいました。在職中は、表彰状や、催事の折に頼まれて書いていたといいます。やはり上手で頼りにされていたのでしょうか。定年後、大東文化大学で勉強し、「名誉成家」まで進まれたそうです。雅号は白鷹です。



人間東部シルバー人材センターで指導中の野村さん

「書」の魅力を伺うと、「一生勉強、無限のところですよ。今日書いたものも明日見てもまだ満足するものではない。いつになっても満足出来るものは書けないので一生勉強です」と。野村さんのひたむきな、謙虚さは、ここからじみ出で、これが若さを保っている源なのだとお話を伺って思いました。
今後は新しい書体に挑戦し、中国の古典等も勉強していきたいとおっしゃっています。
(西角)

歌や司会を30年近く楽しんでいましたが、昨年よりのコロナ禍でできなくなっています。年金者組合「カラオケサークル」も休会中です。また、十数年かかっている医療生協での活動、コープみずほ台店やプラザ館での病気や料理の話しながらの健康チェック、年2回子どもたちが主体で紙芝居や神輿、ダンスなどを行つたがよし公園まつりでの健康チェック等々も中止となっています。西交流センターの縁日の会計も任期1年を残して中止となつてしまいました。現在は感染予防をして地区社協の「ユリの会」と「UR唄う会」に歌や司会に参加しています。「上を向いて歩こう」をくちすさみながら、通年行事が早くできませう願っています。…とのことですが、好きこそもの上手なれと言いますか、高橋さん

(笠原)



(上) 第3回つるせ台まつりでの司会
(下) 2020年10月「ユリの会」